

どっかい

总主编 张正军
副总主编 黄莺



新日本语能力测试
考前强化训练N2·读解

新启航·挑战系列



吕明剑 编著



上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

新启航·挑战系列

总主编 张正军

副总主编 黄莺

新日本语能力测试 考前强化训练

N2·读解

上海交通大学出版社

内 容 提 要

本书为新启航·挑战系列丛书新日本语能力测试考前强化训练的 N2 读解分册。根据最新日本语能力测试的基准及题型变化要求,将 N2 读解以出题类型及解题技巧分类,包括 5 部分,每部分先引入经典例文并作详细地解题思路点拨,后附有针对性的强化练习。阅读材料体裁多样,解说力求简明扼要,通俗易懂。

图书在版编目(CIP)数据

新日本语能力测试考前强化训练. N2. 读解/吕明剑
编著. —上海:上海交通大学出版社,2010
(新启航·挑战系列)
ISBN 978-7-313-06349-6

I. ①新… II. ①吕… III. ①日语—阅读教学—水平
考试—习题 IV. ①H369.6

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 048732 号

新日本语能力测试考前强化训练

N2·读解

吕明剑 编著

上海交通大学出版社出版发行

(上海市番禺路 951 号 邮政编码 200030)

电话: 64071208 出版人: 韩建民

上海崇明南海印刷厂印刷 全国新华书店经销

开本: 787mm×960mm 1/16 印张: 14.25 字数: 257 千字

2010 年 4 月第 1 版 2010 年 4 月第 1 次印刷

ISBN 978-7-313-06349-6/H 定价: 28.00 元

版权所有 侵权必究

前 言

日本語能力测试(JLPT)是由日本国际交流基金会及日本国际教育支援协会于1984年建立的一套较为完整的考试评价体系,并于同年开始在有关国家和地区实施。2008年,世界上共有51个国家和地区的144个城市(除日本国内之外)举办此项考试,56万人报名参加,是世界上最大规模的日语考试。该考试以母语不是日语的人士为对象,测试其日语能力。参加日语考试的人员来源广泛,既有大学日语专业学生,也有因工作需要的社会人员,还有出于兴趣的中学生等。如今,日本語能力测试的成绩日益与留学、就业、升迁等紧密联系起来。

在我国,日本語能力测试由教育部海外考试中心负责组织和实施。截至2008年,全国24个省(自治区、直辖市)的30个城市设有60个考点。该考试从2009年开始每年举办2次,于7月和12月的第一个星期日上午实施。

从日本語能力测试设置开始26年来,应用语言学、日本語教育学、考试理论等不断发展,相应对于考试提出了许多新的要求和建议。国际交流基金会和日本国际教育支援协会于2005年设置了“日本語能力测试改善检讨会”,最终决定从2010年7月开始实施日本語能力测试改革。

新日本語能力测试改革具有以下几个关键点:

1. 试卷组成

N1~N5各级别试卷由“読む試験(文字・語彙、文法、読解)”和“聞く試験”,即阅读考试(包括文字・词汇、语法、阅读理解)和听力考试组成。不设口语考试和作文考试。

2. 制定的5个级别如下:

N1:与原有的1级水平及评价合格标准大体相同,只是在原有基础上略微提高能测定运用能力的难度范围。

N2:与原有的2级水平大体相同。

N3:相当于原有的2级与3级之间的水平。(新增级别)

N4:与原有的3级水平大体相同。

N5:与原有的4级水平大体相同。

3. 考试安排

新日本语能力测试一年考两次,分别为:

7月的第一个星期天:N1、N2、N3;

12月的第一个星期天:N1、N2、N3、N4、N5。

4. 采取“得分等化”

由于每次试卷无法完全做到难易程度相当,为了公平起见,将采取“得分等化”的方式,即尽量保证拥有同等能力水平的考生,不论参加哪次考试都将获得几乎相同的分数。也就是说,可能会根据题目的难易程度按照一个统一的标准来调整,以此来弱化题目难易程度对考生能力水平判断的影响。

5. 真题将不再出版公布

新日本语能力测试,将只公布各级别能力要求和样卷,不再出版和公布正式的考题。

6. 新日本语能力测试 Can-do list

仅凭考试的得分和合格与否无法判断该考生在实际生活中具体会使用哪些日语。因此,在新的测试中还将提供“新日本语能力测试 Can-do list”,作为对考试结果的解释。该解释主要显示各等级合格者在实际使用日语时的相应水平。该解释还具体举例说明合格者可能掌握的实际日语会话,根据这些实际日语会话,合格者本人和其他人能更具体地理解其考试结果。以下是“新日本语能力测试 Can-do list”的举例:

听:能理解学校、工作单位和公共场所等处播音的大体内容;

说:在打工或工作的面试中,详细叙述自己的期望和经历;

读:能看懂与自己关心的话题相关的报纸和杂志等的报道;

写:能写出表达感谢、歉意等传递感情的书信和邮件。

这次改革是一次彻底的改革,整个试卷从构成、内容到考生的备考方式都有了很大的变化,死记硬背的内容相对减少,而对应用能力的要求有了进一步提高。因此,对于之前仅仅为了考试而备考的考生来说,难度有了很大的提升。

正是为了适应这样的改革动向,满足考生的需求,我们在认真总结和借鉴国内外日语考试的基础上,编写了反映新日本语能力测试改革要点的系列丛书,因此,本套丛书在内容和题型的编排上具有以下特点:

(1) 题型丰富,内容全面。题库设计符合最新考试大纲的要求,海量试题,各项内容覆盖均匀合理,难易度适中,并提供专业级的解题思路。

(2) 答疑解惑,指导精辟,针对性强,尤其侧重对日语运用能力和语言理解的分析。

(3) 对命题趋势把握准确,条理清晰,逻辑性强。读者能够较快地在语言方面融入日本的社会,不出国门便能接触到日本的生活,增加其适应力和应变力。

(4) 形式立体,便于学习。模拟试题与听解分册配有听力录音,音质清晰、规范,并做成光盘(MP3 格式)。

本套丛书的最大特点是符合新日本语能力测试的要求,适合学生的学习特点,循序渐进,训练方法高效而又实用,突出加强日语运用能力的重要性。本套丛书的完成是一次大胆的尝试,体现了团队协作、集思广益、取长补短、资源共享和共同发展的合作精神。

由于此次改革力度较大,限于编者的水平,书中的不妥之处在所难免,诚望有关专家、学者及广大读者批评指正。

总主编 张正军

编写说明

在日本语能力测试中,阅读作为一个重要环节历来备受考生重视。阅读成绩的好坏直接关涉着考生总成绩的高低,在改革后的新日本语能力测试中,对各种题类的成绩都作了最低分数线的要求。也就是说,即便总分再高,若单科成绩达不到划定的基本及格要求,也会被视为不合格。此外,和语法、听力等题型的考题相比,读解部分显示出了相当的灵活性,非常考验应试者的变通能力和综合理解能力。倘若处理得当,就能拿到高分,同样,如果训练无术,稍有闪失就会痛失得分,从而导致考试成绩的下降。从历年来的日本语能力测试成绩的统计数据来看,读解部分的得分几乎成为了制约考生总成绩取得高分的一个重要瓶颈。如何突破这个瓶颈,提升考试成绩呢?毫无疑问,这就需要正确的解答方法,而正确的解答方法又是来源于平常的学习和有效的强化参考书。

调整后的日本语能力测试 N2 级别的读解部分共分以下四个题型:内容理解、统合理解、主张理解、情报检索几大部分。其中,“内容理解”根据文章篇幅再进一步地分为短文文章、中篇文章两种。主张理解的文章篇幅较长,内容多为社论、评论等。主要是考查考生在短暂的时间内,能否通读文章并抓住作者所要传达的主张或见解。情报检索是日本语能力测试改革后新出现的读解题型,其基本内容是把与日常生活相关的情景文本化,要求考生能从六七百字左右的广告、宣传册、情报杂志、商务文书中快速找出于当事人必要的情报来。

本书就是为考生参加新日本语能力测试而编写的读解部分的辅导材料。本书内容充实,严格按照改革后的日本语能力测试的读解题型要求来遴选材料,具有很强的针对性。内容由简到难,难易程度适中,覆盖面

广,形式变化多样。尤其是针对改革后的新题型下了很大的功夫,精心准备了各种题材。

本书除适用于参加新日本语能力测试 N2 的考生外,还适用于参加国内日语专业四级考试、大学公共日语四、六级考试及研究生日语考试的考生等,也可作为日语自学者复习和教师的辅导参考用书。

目 录

第一章 新日本语能力测试 N2 读解指南	(1)
一、题型解析	(1)
二、读法要求	(2)
三、样题介绍	(3)
 第二章 N2 读解题型分类及解题方法	 (11)
第一节 内容理解(短篇文章)	(12)
第二节 内容理解(中篇文章)	(45)
第三节 主张理解(长篇文章)	(103)
第四节 信息检索	(165)
第五节 综合理解	(198)

第一章

新日本语能力测试 N2 读解指南

一、题型解析

新日本语能力测试 N2 读解部分的题型可分为如下四类:内容理解、综合理解、主张理解和信息检索。其中,“内容理解”根据文章篇幅分为短篇、中篇、长篇两种。读解部分的题型构成如表 1 所示。

表 1 读解题型的构成

考试科目	题型	N1	N2	N3	N4	N5
言語知識 ・ 読解	内容理解(短篇)	○	○	○	○	○
	内容理解(中篇)	○	○	○	○	○
	内容理解(长篇)	○	—	○	—	—
	综合理解	◆	◆	—	—	—
	主张理解	◇	◇	—	—	—
	信息检索	◆	◆	◆	◆	◆

注:◆ 原先考试当中未出现过的新题型。◇ 原先考试当中原有题型,但形式上会有部分变化。○ 原先考试当中原有题型。— 本级别考试中不会出现的题型。

新日本语能力测试 N2 读解部分各类题型的数目、文章的体裁、内容(话题)、篇幅以及出题意图等具体情况,如表 2 所示。

表 2

题型	题数	文章体裁	内容话题	字数	出题意图	说明
内容理解 (短篇)	5	说明文、指令文等	涉及生活、工作、学习等各种话题	200	能否充分理解文章内容。	除题目数量外与改革前基本相同。
内容理解 (中篇)	9	评论、解说、随笔等	同上	500	能否理解文中的因果关系、理由、概要以及笔者的想法等。	除题目数量外与改革前基本相同。

(续表)

题型	题数	文章体裁	内容话题	字数	出题意图	说明
综合理解	2	不定	同上	600	阅读较为容易的两篇或两篇以上文章,能否综合理解内容,找出相互间的异同点。	改革后的新题型
主张理解 (长篇)	3	评论等	同上	900	阅读论点展开较为明快的评论等,能否从整体上把握作者所要传达的主张、意见等。	改革前也有类似考题,只是形式有所不同。以往为短文题,或是包含于长文中的一小题。
信息检索	2	广告、宣传册、情报杂志、商务文书等	涉及生活、工作、学习等方面的情报信息	700	能否从素材中快速找出所需信息。	改革后出现的新题型

注:根据实际的出题情况,每次考试的出题数目可能会有相应的调整。

通过与改革前的日本语能力测试相比较可以看出,改革后的日本语能力测试将不仅测试语言知识层面的日语能力,而且更加强调对考生实际运用日语能力的测试。而这种对实际运用语言能力的重视反映在读解部分的题型变化上,就是新增设了综合理解题和信息检索题。这两类题型主要考查考生的综合理解能力和快速检索能力,在实用性增强的同时,对阅读速度和阅读效率上的要求也提高了一步。

“综合理解”题,旨在测试考生对内容相互关联的多篇文章进行比较分析及综合理解的能力,如阅读话题相同但观点却不同的两篇文章时,能否准确把握二者的异同点。而“信息检索”题相比正确理解全篇内容,更注重的是能否从文章中快速检索出完成阅读目的或解决实际问题的必要情报。该题型类似于以往读解部分(短文)中的最后一道题,即根据图表中的信息进行归纳,找出正确的选项。

二、读法要求

《新日本语能力测试指南》(以下称《新指南》)将读解的目的确定为“从文章中获取所需信息”,而“选取什么样的文章”以及“如何获取信息”则成为设计读解试题时的两大依据。“选取什么样的文章”即试题中选用的文章类型或体裁,从表2中我们已经有所了解了。关于“如何获取信息”即如何理解文章的内容并获取必要的情报,

《新指南》为我们设定了如下四种读解方法。

* 表3 四种读解方式

	全篇文章	部分文章
迅速	A. 全篇速读	B. 部分速读
仔细	C. 全篇细读	D. 部分细读

结合《新指南》中设定的题型构成,可将新日语能力考试对读解试题中各类文章的读法要求归纳如下。

* 表4

题型	读法类型
内容理解	A. 全篇速读 C. 全篇细读 D. 部分细读
综合理解	A. 全篇速读 D. 部分细读
主张理解	A. 全篇速读 C. 全篇细读
信息检索	A. 全篇速读 B. 部分速读

其中,“内容理解”可进一步分为两类:一类是要求仔细阅读文章中的部分内容,正确把握事实关系、原因及理由的内容理解题,对应的读法类型是D,即“部分细读”;另一类是要求迅速并且全面、准确地理解文章主题大意,把握关键词语和理论扩展的内容理解题,对应的读法类型是A和C,即“全篇速读”加上“全篇细读”。

三、样题介绍

❁ 内容理解(短文)

問題 次の文章を読んで、後の問に対する答えとして最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

(前略)「仕事ができる人」と「できない人」の一番の違いはなんだろうか。私がいろいろな仕事で接してきた「できる人」に共通している特徴は、「自分の能力特性の分析」がうまいということだ。

まず、自分は何が得意で、何が不得意なのかを分っている。もちろんオールマイティ(注1)にあらゆる仕事をこなす(注2)エリートもいるのだろうが、たいていの人は、「仕事の得手、不得手」を持っている。その上で、「得意な仕事」を積極的にこなし、「不得意な仕事」からは上手に逃がっている人が、実は「仕事ができる人」と

評価されるのだ。
(和田秀樹「頭をよくする ちょっとした「習慣術」」による)

(注1) オールマイティ: どんなことも完全にできること

(注2) こなす: 処理する

【問い】 この筆者から見た「仕事ができる人」の特徴はどんなことか。

- 1 自分に向いている仕事は一生懸命にやり、向いていない仕事からはうまくに
けること
- 2 自分の能力特性を高めるための努力をいつも忘れず、何にでも積極的に取り
組むこと
- 3 オールマイティに仕事をしている人のやり方を見習い、不得意なことを克服
すること
- 4 始めに仕事が自分の能力に合っているかを分析し、あらゆる仕事を上手にこ
なすこと

【正解:1】

内容理解(中文)

次の文章を読んで、後の問に対する答えとして最もよいものを、1・2・3・4 から一つ選びなさい。

下の文章は、企業のあり方についての本を出版した人が、その本の内容を紹介したものである。

最近、企業の不祥事が(注1)相次いでいますが、問題を起こす企業には共通点があると思います。それは「社員を大切にしていない」ということです。「社員を大切にすると」は、給料が高いとか、福利厚生(注2)を充実させるということではなく、仕事を通じて成長できるとか、仲間と協力して物事を成し遂げる達成感が感じられるといったことです。問題のある企業はこれらをないがしろ(注3)にし、利益だけしか見ていないのです。

ただ、ここ数年、社員を大切にしながらも業績(注4)を上げている企業が増えています。「社員を大切にするとなど甘いことを言っていたら、経営は成り立たない」といわれる中で、なぜ①それが可能なのか。その条件を探ることが、本書の執筆理由です。

そこで一つ明らかになったのは、通常とは異なるリーダーの姿です。多くの場合、非常に優れたリーダーがいて、社員はただ従っていれば業績がよくなるということが想定されますが、社員を大切にしながら業績を上げる企業のリーダーは

そうではなく、社員を主役にするのです。私はこれをスポンサーシップと名づけましたが、そこでは社員がどんどん力をつけ、育っていきます。

(柴田昌治「リーダーシップからスポンサーシップへ」2007年9月号による)

(注1) 不祥事: 社会に迷惑をかけるような失敗や間違い

(注2) 福利厚生: 企業が従業員やその家族のためになるように作った制度や施設

(注3) ないがしろ: 軽く考えること

(注4) 業績: 仕事の成果や実績

【問1】それは何を指しているか。

- 1 問題を起こしても経営を成り立たせること
- 2 高い給料を払って、福祉を充実させること
- 3 社員が仲間と協力して仕事を達成すること
- 4 社員を大切にしながら業績を上げること

【正解:4】

【問2】筆者がここで重視している「企業の優れたリーダー」とはどのようなリーダーか。

- 1 強い指導力で社員を引っ張り、どんどん業績をあげることでできるリーダー
- 2 社員に高い給料を払い、福利厚生を充実させることを第一に考えるリーダー
- 3 社員の自主性を尊重し、社員が働きながら伸びていけるようにするリーダー
- 4 教育に十分時間をかけ、社員が成長してから働いてもらおうとするリーダー

【正解:3】

✿ 総合理解

問題 次の文章は、「相談者」からの相談と、それに対するAとBからの回答である三つの文章を読んで、後の問に対する答えとして、最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

相談者:

私の彼のことで相談したいことがあります。彼は私の誕生日などによくセーターやアクセサリーをプレゼントしてくれるのですが、いつも私の好みではないものを贈ってくれるのです。私はどちらかというと単色ではっきりした色のシャープなデザインのものが好みなのですが、彼からのプレゼントはいつも淡い色を多く使った、女の子らしいかわいいデザインのものが多いのです。

彼のことはとても好きだし、一生懸命選んでくれているのがわかるだけに、①私の本当の気持ちを言い出しにくくて困っています。どうしたらよいでしょうか。

回答者 A:

これからも長くお付き合いすることを考えているのなら、やはり彼にあなたの本当の好みを伝えて分かってもらったほうがよいと思います。でも、プレゼントをもらった時に「こういうのは好きじゃない」と言うと彼を傷つけてしまうので、ふだんからデートの時にショーウィンドーを見ながら、「わたしこんな服が好きなのよ」とか「これ、欲しいなあ」などと言って、彼にそれとなく伝えるようにしてはいかがでしょうか。

回答者 B:

自分で思っているイメージと他人から見たイメージとは違うことも多いものです。自分では「シャープなデザイナーが似合う」と思っているが、彼から見ると「かわいらしい感じのデザイナーが似合うはず」と思っているのかもしれない。自分で自分のイメージを決めてしまわずに、一度思い切って身につけてみてはどうでしょうか。新しい自分が発見できるかもしれませんし、彼もそれを期待しているのかもしれないよ。

【問1】 ①「私の本当の気持ち」とは、どんな気持ちか。

- 1 彼が一生懸命選んでくれているのでとてもうれしい。
- 2 彼からのプレゼントは私の好みのものでない。
- 3 淡い色のかわいらしいデザイナーのものが欲しい。
- 4 セーターやアクセサリーはもうあまり欲しくない。

【正解:2】

【問2】 「相談者」の相談に対する A、B の回答について、正しいのはどれか。

- 1 A も B も、彼からの心のこもったプレゼントなので、素直に身につけたほうがよいと言っている。
- 2 A も B も、長くお付き合いするために相手の好みや考え方に合わせるべきだと言っている。
- 3 A は相談者の彼の考え方に理解を示し、B は相談者の好みをより重視する意

見を述べている。

4 Aは相談者の好みをより重視し、Bは相談者の彼の考え方に理解を示す意見を述べている。

【正解:4】

✿主張理解(長篇文章)

問題 次の文章を読んで、後の問いに対する答えとして、最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

勝ち組、負け組って何だろう。

春先は入学や就職など、進路が決まったり決まらなかったりする季節である。ゲームならルールがあつて明確だ。しかし、われわれ「人」の勝ち負けに、世界共通の基準などあるのだろうか。勝ち負け——つまり成功の基準は、人によりさまざまなのはずだ。同じ一個人でも時と場合によっては、ちがってくる。

(中略)

試験は合格が「勝ち」で不合格は「負け」。資格試験であれば、取得できれば成功、できなければ不成功。とてもわかりやすい。

ただ、これも試験そのものの基準であつて、人を組分けする基準ではない。受験者はそれぞれ個別の事情や目標をもっている。受験に至るまでの、そのような一切(注1)を評価するのは本人であり、他人がとやかく言う問題ではない。

では、どうしてまわりの評価や基準が気になるのだろうか？ それは、自分の中で成功の基準を持っていない、意識していない人が多くなっているからではないか。毎日の生活の中で、何ができればいいのか、どう感じるかが幸せなのかを、ちっとも考えなくなっているからではないか。自分の基準がないから、周りを気にする。他人と比べるから、勝ち・負けの発想に傾いてしまう。しかもその際、他人の基準を使うから、どうしたってストレスがたまるし、勝つよりは負けるほうが多くなる。

私自身、30代までは、まわりの評価を基準にしていた。そしてあるとき「一生こうして生きるのか」と考えたら、そもそも「自分はどう生きたいのか」を、まじめに考えたことすらないことに気づいた。

その後、会社を辞め、独立もしてみた。再就職も何社かした。だが、たいして変わらなかった。今にして思えば、そのとき自分がやったことは、「まわりを変える」ことであつて、肝心の(注2)①「自分を変える」ことではなかったからだ。

40半ばを過ぎ「自分の成功基準を持つ」大切さに気づいた。生活の中に数々の

成功基準を持つことで、一日の生き方は、どんどん意識的なものになる。たとえば、朝早起きできれば成功、そのジョギングをして、道すがら(注3)何か発見があればこれまた成功、気持ちよく仕事に行ければ大成功、夜仲間と飲めれば大成功!といった具合だ。

われわれは②われわれ自身の「ゲーム」の主役だ。ルールは自分で決めて打ち込め(注4)ば、毎日はスリリング(注5)で楽しいものになる。

(三好隆宏「私の視点」2008年3月12日付け朝日新聞朝刊による)

(注1) 一切:すべて

(注2) 肝心の:もっとも重要な

(注3) 道すがら:途中で

(注4) 打ち込む:何かをいっしょうけんめいする

(注5) スリリング:わくわくする

【問1】 ①「自分を変える」こととは、どのようにすることか。

- 1 自分が本当にやりたかった職業につくこと
- 2 負けた時にも成功だと思える人になること
- 3 毎日の生き方の中に自分の基準を持つこと
- 4 まわりの評価を基準にする人間になること

【正解:3】

【問2】 ②われわれ自身の「ゲーム」が意味していることは何か。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 自分の生き方や生活 | 2 ジョギング中の発見 |
| 3 成功の基準を探ること | 4 自分に合っている仕事 |

【正解:1】

【問3】 筆者がこの文章で一番言いたいことはどんなことか。

- 1 まわりの評価を基準にしたとき自分の生き方が成功だったとしても、自分が本当に満足していなければ成功とは言えない。
- 2 まわりの基準による勝ち負けの発想を捨て、自分で決めた成功基準を自分の行動に当てはめて生活することが大切である。
- 3 人生で勝ち組に入るにはまわりの評価や基準を気にせず、世界共通の基準を意識して自分の中に取り入れるべきである。
- 4 一日の生き方で大切なことは、朝早く起き、適度な運動をし、気持ちよく仕事をし、夜仲間と楽しくつきあうことである。

【正解:2】